

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 9 巻
動物臨床看護学総論/動物臨床看護学各論』（第 2 版第 4 刷）
訂正とお詫び

掲載記事中、以下の記事に誤りがございました。ここに訂正させていただくとともに読者の皆様及び関係者の方々に深くお詫び申し上げます。

株式会社 EDUWARD Press

2026 年 3 月 9 日作成

頁	記事タイトル	該当箇所	誤	正
p.422	動物臨床看護学各論 第 2 章 8	左段上から 6 行目	大型犬においては膝蓋骨が外側に脱臼する膝蓋骨外方脱臼のほうがよく認められる。	外方脱臼は大型犬でよく認められるとされているが、「大型犬だから外方脱臼」と限定するものではなく、臨床的にも内方脱臼が多い印象である。
p.427	動物臨床看護学各論 第 2 章 8	左段下から 1 行目	犬においてはグレード I ～III の OCD は臨床症状を現さないため診断されることはまれである。	犬においてはグレード I ～Ⅱの OCD は臨床症状を現さないため診断されることはまれである。